

東京港中央防波堤外側地区国際海上コンテナターミナル整備事業

事業の目的及び概要

国際コンテナ戦略港湾(京浜港)の目指す姿として、港湾の民営化と国際競争力強化に向けた3港(東京、川崎、横浜)一体となった施策の推進により、コンテナ港湾としての国際的な相対的地位低下の打開、アジア主要港への対峙を図ります。

このような中、今後も増大が予想されるコンテナ貨物に対応するとともに、既存ターミナルの再編を進めるため、中央防波堤外側地区において効率的な運用に不可欠な連続バースによる高規格コンテナターミナル(Y2・Y3)を早期に整備する必要があります。

平成27年度事業

環境アセス等を実施します。

効果

- 世界標準となる大水深コンテナターミナルを整備することにより、国際海上コンテナ物流において基幹的な航路である欧州航路や北米航路に就航している8,000TEUクラス的大型コンテナ船による効率的な輸送が可能となり、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- また、本事業により耐震性を強化した岸壁を整備することにより、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の維持・確保に貢献できます。



横浜港南本牧ふ頭地区国際海上コンテナターミナル整備事業

事業の目的及び概要

国際コンテナ戦略港湾(京浜港)の目指す姿として、港湾の民営化と国際競争力強化に向けた3港(東京、川崎、横浜)一体となった施策の推進により、コンテナ港湾としての国際的な相対的地位低下の打開、アジア主要港への対峙を図ります。

このような中、今後も増大が予想されるコンテナ貨物に対応するとともに、既存ターミナルの再編を進めるため、南本牧ふ頭地区において効率的な運用に不可欠な連続バースによる高規格コンテナターミナル(MC3・4)を早期に整備する必要があります。

MC3については、平成27年4月に一部供用が開始されました。

平成27年度事業

岸壁(水深18m)(耐震)のセル製作・据付2箇、裏込等を実施します。

効果

- 世界標準となる大水深コンテナターミナルを整備することにより、国際海上コンテナ物流において基幹的な航路である欧州航路や北米航路等に就航している8,000TEUクラス以上の超大型コンテナ船による効率的な輸送が可能となり、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- また、本事業により耐震性を強化した岸壁を整備することにより、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の維持・確保に貢献できます。



東京港10号地その2～中央防波堤外側地区臨港道路整備事業(南北線)

事業の目的及び概要

国際コンテナ戦略港湾である京浜港の一翼を担う東京港において、中央防波堤地区の開発に伴う将来交通量の需要の増大に対応し、円滑な物流を確保するため、中央防波堤地区と有明側を結ぶ主動線として、臨港道路(南北線)を整備します。

平成27年度事業

設計・環境アセス、仮設工等の工事を実施します。

効果

- 中央防波堤外側地区と10号地その2地区を接続する臨港道路を整備することにより、東京港のふ頭間交通の円滑化、および東京港と背後圏のアクセスが向上されることで、物流効率化を図るとともに、東京港の国際競争力を強化します。
- これまで都市機能の集中している臨海副都心(お台場)に流入していた港湾関連車両が、臨港道路(南北線)を利用することで都市交通と港湾物流交通の分散が図られ、臨海副都心地区における交通混雑・沿道環境が改善されます。



川崎港東扇島～水江町地区 臨港道路整備事業

■事業の目的及び概要

京浜港の中間に位置する川崎港東扇島地区は、総合物流拠点としての事業展開や流通加工機能を有する倉庫の新增設など高度な物流機能の集積が進展しており、京浜港の貨物の保管・配送拠点として、首都圏をはじめとする背後圏への貨物輸送の増加が見込まれています。

一方、東扇島地区への一般道からのアクセスは、川崎港海底トンネルのみであり、慢性的な渋滞が生じているとともに、危険物車両の通行制限により迂回を余儀なくされています。

このため、平成21年度から、東扇島と水江町とを結ぶ新たな臨港道路（橋梁方式）の整備を進めており、川崎港海底トンネルの渋滞解消を図るとともに、今後増加する物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図ります。

■平成27年度事業

橋梁下部工、仮設工、調査設計等を実施します。

■効果

- 新たな臨港道路の整備により、川崎港と背後圏等との間を流動する物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- また、基幹的広域防災拠点を有する東扇島地区等において、大規模地震等の災害時における陸上輸送ルートの特代替性が図られるほか、川崎市域とのアクセス向上により、東扇島地区等の就労環境が向上します。



●用語の説明

※1 基幹的広域防災拠点：災害時において、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時は公園としても機能する。

横浜港南本牧～本牧ふ頭地区臨港道路整備事業

事業の目的及び概要

横浜港におけるコンテナ貨物の増大に伴い、コンテナ荷役の主力である南本牧ふ頭及び本牧ふ頭と背後圏との間、並びに流通機能が集積する大黒ふ頭との間を流動するコンテナ貨物車両が増加しており、交通渋滞が発生しています。

このため、平成21年度から、南本牧ふ頭と本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図っています。

平成27年度事業

橋梁・高架橋上部工、擁壁工等を実施します。

効果

- 新たな臨港道路の整備により、横浜港と背後圏との間、並びに港内を流動する物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- 交通円滑化の一例として、南本牧ふ頭地区～本牧ふ頭地区間の所要時間を4割短縮することが可能となります。
- また、南本牧ふ頭へのアクセス道路が複線化されることで港湾物流関連車両の動線が確保される為、事故や災害等の発生時においても円滑なコンテナターミナルの機能が確保されます。

